

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400118		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームすもも		
所在地	群馬県伊勢崎市太田町856-1		
自己評価作成日	平成27年2月13日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームでの生活ですが個々の生活に合った暮らしをしており満足されている方が多い ・食事がおいしいと利用者様よりお褒めの言葉を頂くことがある ・地域の方々と仲良くしている、ホームの中に常に入れる状況ができています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各居室がそれぞれ充実しており、居室を見るとその住人の趣味や好み、人間性が想像できるほど個性に富んでいる。また、地域への働きかけを開設以来続けてきたがようやく成果が上がってきている。災害時の訓練では地域の住民に事業所の事情を伝えて、役割を持って参加してもらい、年々協力が得られている。これからも地域と協力関係を密にして地域の拠点として、貢献してほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に行動している。迷ったときなど理念を読み理解して行動している。	職員は慌てると声を荒げたり理念から逸脱しそうになるので、接遇時には落ち着くことや間をおき、職員を変えるなど工夫しながら、理念に沿ったサービス提供ができるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリスマス会には地域のかたの参加また収穫祭には招いて頂き和やかに楽しく過ごしている。	年々ボランティアの来訪者が増加している。夏祭りの休憩所に事業所を提供した。災害時の訓練では地域の住民に事業所の事情を伝えて、役割を持って参加してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議・ボランティアの方々に参加して頂くことにより、認知症の方の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の好評について、話し合いを設けています。ホームの向上の参考にしている。	定期的開催され市の担当者や区長・民生委員・生涯学習委員等が参加し、事業所から現況報告を行い、地域の役員からも意見や地域行事等の情報が提供されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本社担当者が日ごろより出向き、報告連絡などに密にとり協力体制をとっている。	管理者と法人の課長が連携を図り、課長が市の担当者に事業所の様子を報告している。ケアマネジャーが介護保険更新代行を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所の入れ替わり、不穏等で落ち着きませんので、落ち着きましたら開放の方向で取り組みます。	玄関は開錠されている。共用空間の窓も開いている。職員会議で身体拘束に関する勉強会を行っている。外にふらっと出たい利用者とは職員と一緒に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で虐待について議論しています。また見過ごしていないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今も成人後見人制度を利用している。揉める事もなく、良い制度と理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は口頭にて説明している。利用契約書、重要事項説明書に基づいて管理者が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけ、ご家族の要望等に添える対応をしている。また、年に1回家族アンケートを実施している。	年に2回家族会を開催し利用者の状況を説明し、家族には要望や不満を聞く機会を作り、出された意見をサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、ホームでの改善点や意見を出し合える様な取り組みをしている。また家族会を行い、出された意見を参考に運営を反映している。	職員会議は各人が意見の言いやすい環境があり出された意見は共有し、ケアプランに繋げる等反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通じて各職員が向上心を持って働けるようバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外を問わず、研修に参加できる機会を整えており、共有できるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者の意見を交換する機会は設けていないが、サービスの向上の為に社会資源は不可欠であると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配や不安を抱えて入所されるわけで、どの様にサポートして行けるかが我々職員の役目であり、コミュニケーションや普段の何気ない会話から察していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望には出来るだけ応えられる様に心がけている。家族会も定期的に行い、話し合いの場を設けている。あまりホームに來られないご家族には電話連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	迅速な対応をし、他の機関との連携を行い、必要としている支援と一緒に考え提供に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは家庭生活の延長であるので、生活を共にすることで教えて頂く事もたくさんあるので敬意を持って対応していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会や電話連絡を行い、ご家族様にも日々の出来事や情報を共有してもらうことで絆を大切に共に支援をしていく体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人にいつでも来て頂ける様な居心地のいいホームになる様に心がけている。買い物に出かけたり散歩をしたりして外部との交流も図っている。	「上毛かるた」を読み合い楽しんでいる。野菜の仕分けを手伝ってもらい、干し柿と一緒に作った。買い物に出かけることやケーキや焼きまんじゅう等の馴染みの食べ物を食べに行く外出行事に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならない様に仲裁に立ち、円滑に関わりが持てる様、間に入りコミュニケーションの手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況を聞いている。時々ギター演奏に来て頂き、皆さんと歌を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけをして本人の意向を察したり、昔の話から思いを聞きとるようにしている。困難な場合は、ご家族から情報を得て参考にしている。	本人からの希望や家族の希望を日常の会話から聞き取っている。職員も支援の中で気づいたことを共有し把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方一人ひとりの今までの生活や、経験を沢山聞きサービス提供を行っている。その型の多くを知る事で、良いサービスが出来ると考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者の状態が分かるように、申し送り帳をいつでも見れるようにしていたり、細かな事でもケア記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が利用者の状態が分かるように、申し送り帳をいつでも見れるようにしていたり、細かな事でもケア記録に残している。	月に1度のカンファレンスで職員が意見を出しあい、モニタリングに繋げている。計画の見直しは随時と3か月に1度見直して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	声掛けして本人の意向を察したり、昔の話から思いを聞きとるようにしている。困難な場合はご家族から情報を得て参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望時は、事務所の電話を利用し、電話をかけたり、取り次ぎを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には、利用者様と共に参加し、ホーム内では、ボランティア体操等を定期的に行い、地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、かかりつけ医の往診がある。受診・通院はご家族対応だが、都合でどうしても行けない場合は、ホームで対応している。	入居時にかかりつけ医の継続や協力医への変更が可能であることを説明している。希望で訪問歯科支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看が来苑し、いつでも連絡が取れるようになっている。毎日バイタルチェックを行い、体調不良や普段と様子が違う方が居たら、記録に残し職員協力しあい、連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、その方の状態や情報を入院先の病院へ細かく伝えている。又、時々見舞いに行き、変化や状態を見る様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携している医師より終末期等のお話があり次第、早い段階でご家族との話し合いを設け、ご家族の意見に沿って支援させて頂いております。	希望があり医師や家族等の関係者の協力が得られれば事業所として終末期の支援をするという指針がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を受講して、緊急時の手当の仕方など学んでおります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日に避難訓練・防災訓練を行っており、一年に一度消防本部やご近所の方々の協力を得て、夜間想定のみ火災訓練も行っております。	消防署立会いの下で、26年11月夜間想定総合訓練、27年2月夜間想定通報避難訓練を近隣住民が参加し実施した。独自の火災・地震訓練を月に1度実施。水・食料・カセットコンロ等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格、生き方等を尊重し言葉使いにも気を付けている。プライバシーを損ねない様に、居室に訪室する時は声をかけたりノックを行っている。	管理者は職員が慌ててしまうと尊厳を損ねてしまうことに繋がるので、慌てることが無いように、指導している。利用者の個別の意向を実現したいという思いがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の気持ちに寄り添い、希望に添えるような支援に努めている。食べたい物、欲しい物は、出来る範囲で応えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせてその日を過ごせるように、落ち着いて過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔、整髪から、その方らしい身だしなみを職員と一緒に考える事もある。又、訪問美容室をお願いして女性として輝けるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目にも美しく美味しく召し上がって頂けるように努めている。食事の前の用意や片付けも無理のないように食器拭き、テーブル拭きを利用者様がして下さる。	一緒に利用者と職員が食事の時間を楽しんでいる。食べたい物の希望が出れば臨機応変に対応している。寿司の出前や飲み物は何が良いか聞いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった量を摂取する事は大切だが、一人ひとりに応じた食事形態にして必要な時は栄養補助食品も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを、利用者様に行って頂き、難しいところは職員が介助している。口腔内がいつも清潔であるようにどこを磨いてほしいか伝えることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮して、利用者様一人一人に合わせている。パットを使いやすい場所に設置したり工夫している。	チェック表を作成しその人に合った声掛けや誘導とパット等も大小使い分けて快適な排泄支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様、適度に水分を摂取して頂き一日の水分量を記録している。また、毎日の体操も行っている。必要な時は看護師に報告して薬を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望と体調に合わせて無理の無いように行っている。入浴を楽しんでもらうように入浴剤を入れたり工夫している。	週に4日の入浴日が決められている。入浴を拒む利用者には家族も手伝ってタイミングを計っている。	入浴日を設定することなく、毎日声を掛けて希望者には支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動後や、入浴後は休まれる方が多い。その時の体調で休息して頂けるように、職員からも声かけをしている。又、冷暖房を適切に使用し快適に過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報の周知徹底、内服までの声を出しての確認。最後まで内服したかまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の趣味を活かして物づくりをして頂いたり、ボランティアの方を招いて体操や歌を唄う活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダに出て外気浴を行ったり、季節の花を觀賞しに出掛けたり、会社全体で旅行に観光に出掛けることもある。	冬でも冷たい風にあたりながら日常的にベランダに出ることや散歩に出かけている。季節の花見や花火等の地域の行事に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の気持ちを理解して、ご家族様の了解のもと、ご自分で小額のお金を所持され必要に応じて使用する方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、相手の方や時間にも配慮して事務所の電話を利用して、連絡が取れるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも快適に過ごせるように清潔を保っています。また、季節に合わせた花を飾って言い心地よく過ごせて、利用者様が自然と集まれるようにしています。	程よい間隔でテーブルが3つに分かれている。ベランダで体操をしたり畑を見ることができる。明るく清潔で不快な臭いは無い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて、気の合った方同士やその他、誰もが好きな時に座れて過ごせる場所や、自席を設け自分の場所だと安心して過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族と相談して、落ち着いて過ごせるように馴染みの家具を使用出来るようにしています。	各居室は日常品の整理の仕方や布団のたたみ方がそれぞれ違い利用者の個性が出ている。入居時にベッドやタンスの配置を家族に聞いている。お位牌や利用者の好みの物が置かれている。不快な臭いは無い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく見やすいように表示をして、出来る事は、利用者様に行って頂き、無理のないようにしています。		